

中期選抜学力検査

検査 1

国語

解答上の注意

- 1 「始め」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 問題は、この冊子の中の1〜4ページにあります。
- 3 答案用紙には、**受付番号**を記入しなさい。氏名を書いてはいけません。
- 4 答案用紙の**答の欄**に答えを記入しなさい。採点欄に記入してはいけません。
- 5 答えを記入するときは、それぞれの問題に示してある**【答の番号】**と、答案用紙の**【答の番号】**とが一致するように注意しなさい。
- 6 答えを記号で選ぶときは、答案用紙の**答の欄**の当てはまる記号を○で囲みなさい。答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消すか、それに×をつけなさい。
- 7 答えを記述するときは、丁寧に書きなさい。
- 8 答えの書き方について、次の解答例を見て間違いないようにしなさい。

解答例

一 火曜日の翌日は何曜日か、漢字一字で書け。……………**答の番号【1】**

二 次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 北と反対の方角として最も適当なもの、次の(ア)〜(ウ)から一つ選べ。
……………**答の番号【2】**

(ア) 東 (イ) 西 (ウ) 南

(2) 次の(ア)〜(ウ)の数を値の小さいものから順に並べかえ、記号で書け。
……………**答の番号【3】**

(ア) 7 (イ) 5 (ウ) 3

二		一	問題番号
(2)	(1)	【1】	答の番号
ウ ↓ イ ↓ ア	ア イ ウ	水 曜日	答の欄
【3】	【2】	【1】	採点欄

検査	
1	
受付番号	
1	23456
得点	

「字数制限がある場合は、句読点や符号なども一字に数える。」

次の文章は、「江談抄」の一節である。注を参考にしてこれを読み、問い(1)～(5)に答えよ。(12点)

閣を閉ぢて唯聞く朝暮の鼓 楼に登りて遙かに望む往来の船

河陽館に行幸す 弘仁御製

故賢相伝へて云はく、白氏文集の一本の詩、渡来して御所に在り。尤も秘蔵せられ、人敢へて見る事なし。この句はかの集に在り。覧の後、すなはちこの觀に行幸せられ、この御製有るなり。小野篁を召して見せしめたまふに、すなはち奏して曰はく、「遥」をもつて「空」と為さば、いよいよ美かるべし」といへり。天皇大いに驚き、勅して曰はく、「この句は楽天の句なり。汝を試みたるなり。本は『空』の字なり。今、汝の詩情は楽天と同じきなり」とのたまへり。文場の故事、尤もこの事に在り。よりて書すと。

〔新日本古典文学大系〕による)

注

- ①閣：高い建物 ②鼓：時をつける太鼓 ③河陽館：淀川のほとりにあった離宮
④行幸：天皇が外出すること ⑤弘仁：嵯峨天皇 ⑥御製：天皇が作った詩文
⑦賢相：賢い大臣 ⑧白氏文集：唐の時代の中国の詩人である白楽天の詩文集
⑨尤も：とりわけ ⑩この觀：③と同じ ⑪小野篁：平安時代の漢詩人、歌人
⑫楽天：白楽天 ⑬文場：文学 ⑭尤もこの事に在り：これが一番だ

(1) 本文中の 伝へて云はく は歴史的仮名遣いで書かれている。この平仮名の部分をすべて現代仮名遣いに直して、平仮名で書け。 …… 答の番号【1】

(2) 本文中の 召して の解釈として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。 …… 答の番号【2】

- (ア) 嵯峨天皇がお呼びになって (イ) 嵯峨天皇が派遣なさって
(ウ) 賢相が叱責なさって (エ) 賢相がお褒めになって

(3) 本文中の 試みたるなり とは、「試したのだ」という意味であるが、試した方法として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。 …… 答の番号【3】

- (ア) 一部を隠した句を見せた (イ) 作りかけの句を見せた
(ウ) 誰のものかわからない句を見せた (エ) 一部を変えた句を見せた

(4) 次の(ア)～(エ)は、本文中のできごとについて述べたものである。(ア)～(エ)を時間の経過にそって古いものから順に並べかえ、記号で書け。 …… 答の番号【4】

- (ア) 嵯峨天皇が白氏文集の一本の詩を見た。 (イ) 嵯峨天皇が句を作った。
(ウ) 嵯峨天皇が河陽館に出かけた。 (エ) 白氏文集が渡来した。

(5) 次の会話文は、本文について、都さんと学さんが話し合ったものの一部である。これを読み、後の問い①・②に答えよ。

都さん この話の要は、楽天が詠んだ漢詩だね。
学さん うん。教科書に載っている「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」という漢詩と同じで、春の長江が詠み込まれているんだよね。
都さん そうだよ。今と違って、嵯峨天皇の頃は、書物はとても貴重で、簡単に手に入らなかったんだよ。
学さん そんな状況の中で、 から嵯峨天皇は驚いたんだね。

① 漢詩 「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の起句と承句の書き下し文は、「故人西のかた黄鶴楼を辞し 煙花三月揚州に下る」であり、漢文では「故人西辞黄鶴楼 煙花三月下揚州」と記す。これに返り点と送り仮名をつけたものとして最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。 …… 答の番号【5】

- (ア) 故人 西 辞 黄鶴楼 煙花 三月 下 揚州
(イ) 故人 西 辞 黄鶴楼 煙花 三月 下 揚州
(ウ) 故人 西 辞 黄鶴楼 煙花 三月 下 揚州
(エ) 故人 西 辞 黄鶴楼 煙花 三月 下 揚州

② に入る最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。 …… 答の番号【6】

- (ア) 白氏文集という書物の存在を知らないはずの小野篁が、御所に秘蔵されている「一本の詩」について詳しく知っていた
(イ) 秘蔵されている白氏文集に載っている句を知らないはずの小野篁が、嵯峨天皇の句がその句とまったく同じ句になるような助言をした
(ウ) 白氏文集が唐から渡来したことを知らないはずの小野篁が、白氏文集は人目に触れないよう秘蔵されていることを知っていた
(エ) 秘蔵されている白氏文集について何も知らないはずの小野篁が、楽天の句を嵯峨天皇の句と同じ詩情にまで高めるような発言をした

【裏へつづく】

人は年齢を重ねるにつれて、明示的・暗示的な社会的検閲を何度もくりぬけながら感情を飼(か)い馴(な)らすすべを覚え、しだいに疑問を疑問と感じなくなっていく。そしてたいていの場合、それが「大人になる」ことだと勘違いしてしまう。

けれども自然にこみあげてくる怒りや苛(いら)立ちを抑制したり、湧(わ)き上がってくる不信や疑念を封印(ふういん)したりするのは、成熟(せいじゆう)の証(あかし)であるところか、むしろ退化(たか)の徴(しるし)なのではあるまいか。およそ人間であれば、いろいろなキョク面(めん)で感情の昂(たか)ぶりを覚えたり素朴(すぼく)な疑問を抱(かか)いたりするのは当然(たうぜん)の反応(はんおう)である。そのことを隠(かく)すには及(およ)ばないし、恥(かたじけ)ない必要(ひつよう)もない。そうした反応(はんおう)ができるのは、人として欠(か)くべからざる、ひとつの貴重な能力(のうりょく)でさえある。だから通常(じょうじょう)の定義(ていぎ)に逆行(ぎゃくこう)することを「大人になる」ための第一条件(だいいつじょうけん)と考えたい。

この定義(ていぎ)を踏(ふ)まえてみれば、いささか逆説(ぎゃくせつ)的な言い方(かた)になるが、「大人になる」にはまず「子どもになる」ことが必要(ひつよう)であるといえるだろう。子どものように悲(かな)しいことを悲(かな)しいと感じ、おかしきことをおかしきと思うこと。青空(あおぞら)を見上げているうちにわけもなく涙(なみだ)が出(で)そうになったり、見慣(みな)れた道を歩(あ)いているうちにどうして自分が今(いま)ここにいるのかわからなくなったりすること。へ1)そんな「子ども」になることのできない人は、たぶん「大人」にもなることができない。へ2)ただしもちろん、いったん「子どもになる」だけでじゅうぶんというわけではない。へ3)「大人になる」ためにはもうひとつ、不可欠(ふかた)の要件(じょうけん)がある。それはさまざまな感情(かんじ)や疑問(ぎもん)を生(な)ま吐(は)き出すのではなく、自分(じぶん)の中で咀嚼(そくかく)し、反芻(はんそう)し、消化(しょう化)した上で、他者(たが)に共有(きょうゆう)可能な形(かたち)で言語(げんご)化(か)できる能力(のうりょく)をもつということだ。この条件(じょうけん)を満た(み)せない限り、人はいつまでも子どもそのままにとどまってしまう。へ4)みずからの内部(うち)に萌(も)した曖昧(あいまい)な感情(かんじ)や素朴(すぼく)な疑問(ぎもん)に的確(たつとく)な言葉(ことば)を与(たま)え、自分(じぶん)以外(い)の他者(たが)に向けて差(さ)し出すこと——これは想像(さうぞう)以上に困難(くわんなん)をとまなう作業(さぎょう)であり、十全(じゅうぜん)な形で実行(じっこう)するには、それなりの下地(げち)や素養(すよう)が必要(ひつよう)である。つまりこの作業(さぎょう)を可能(可能)にするだけの豊富な知識(ちしき)や経験(けいけん)、そしてそれらに裏打ち(うらうち)された高度(こうた)な思考(しこう)能力(のうりょく)がなければならぬ。私たちはこれらの要素(ようそ)をひとまとめにして、しばしば「教養(きょうよう)」という言葉(ことば)で表(あらわ)してきた。したがって「大人になる」ためにはこの意味(い)での教養(きょうよう)を身につけること、すなわち「教養人(きょうようじん)」になることが、第二(だいに)の条件(じょうけん)として求められることになる。

ところで「教養人(きょうようじん)」という言葉(ことば)から、あなたはどんな人間(にんげん)像(ざう)を思い浮か(うか)べられるうか。

「あの人は教養(きょうよう)がある」という言い方(かた)をする場合(ばあい)、私たちはたいいてい、いろいろなこと幅(は)広く知(し)っている人(ひと)、自分の仕事(しごと)以外(い)のことにも関(か)心(しん)があり、読書(よみかき)量(りょう)

【下へつづく】

が豊(とよ)かで、どんな話題(たひ)にも合わせられるだけの知識(ちしき)をそなえている人(ひと)のことをイメージしている。たとえば情報(じほう)産業(さんぎん)の最前線(さいぜんせん)で活躍(かくげつ)する企業(けいぎん)人が、ふと「モンテニユも言(い)ってますけど、人間(にんげん)とは、おどろくほど空(くう)しく、変(かは)りやすく、うつろいやすい存在(そんざい)ですよね」などといってみせたりすると、私たちは率直(さつじき)に「ああ、この人は教養(きょうよう)があるな」という印象(いんげん)を抱(かか)く。

逆に自分(じぶん)の専門(せんもん)とする分野(ぶん)のことにくら精通(しんこう)していても、それ以外(い)の話題(たひ)にまったく疎(そ)い人物(にんぶつ)のことを「教養人(きょうようじん)」と呼(よ)ぶ者はまづいない。「源氏物語(げんじものがたり)」については生き字引(いきじよひ)のように詳しい国文学(こくぶんがく)研究者(けんぎゆしや)が、うっかり「TPP(Trade Promotion Agreement)ってなんですか」などと口走(くちそう)るものなら、世間(よ)知らず呼(よ)びわりされるのが関(か)の山(やま)だろう。

こうしてみると、「教養人(きょうようじん)」の条件(じょうけん)としてまず要求(ようきう)されるのは、複数(ふくすう)の分野(ぶん)にまたがるバランスのとれた知識(ちしき)をもっていることであるといえそう。しかしながら、単(ただ)に多くの知識(ちしき)を所有(しゆりやう)しているというだけで「教養(きょうよう)がある」といえるわけではない。たとえばテレビのクイズ番組(くゐずばんぐみ)には信じ(しん)じられないほど博学(はくがく)な人がしばしば登場(とうじやう)するけれど、彼(かれ)らは「物知(ものち)り」ではあっても、必ずしも「教養人(きょうようじん)」であるとは限(かぎ)らない。いろいろなることを知(し)っているということは、「教養人(きょうようじん)」であるための必要条件(じょうけんじょうけん)ではあるかもしれないが、決して十分条件(じふぶんじょうけん)ではないからだ。

では、単(ただ)なる「物知(ものち)り」と「教養人(きょうようじん)」の違い(ちがひ)はどこにあるのだろうか。おそらく両者(りやうしや)を隔(へ)てる決定的(けつていてき)な一線(いっせん)は、さまざまな知識(ちしき)をただばらばらの断片(たんぺん)として所有(しゆりやう)しているだけなのか、それともそれらを相互(たがひ)に関連(かんれん)づけ、一貫(いっくわん)した思考(しこう)の体系(ていけい)(これを個別的(こどくぶてき)な「知識(ちしき)」と区別(くわくべつ)する意味(い)で、仮(かり)に「知(ち)」と呼(よ)んでおこう)へと統合(とうごう)できる能力(のうりょく)をそなえているのか、という点(てん)にある。なにかを知(し)っているということとは、それだけではなにを意味(い)するわけでもなく、せいぜい「そんなことまでよくご存知(ごぞんじ)ですね」と感心(かんしん)される程度(ていど)のことにしただけに立(た)たない。しかしそれが「知(ち)」を構築(こうきゆう)する要素(ようそ)として有機的(うけき)に組み込(くみこ)まれ、いつでも適切な仕方(しほう)で動員(どうぎん)される状態(じょうたい)にまで昇華(しょうか)されるに至(いた)ったとき、人は単(ただ)なる「物知(ものち)り」ではない「教養人(きょうようじん)」として振舞(ふるま)うことができるようになる。

ところでこのように定義(ていぎ)された「教養人(きょうようじん)」は、断片(たんぺん)的な知識(ちしき)を体系的(ていけい)な知(ち)へと構造化(こうざい)するための「軸(じく)」をもっていなければならない。それはべつにいわゆる学問(がくもん)である必要(ひつよう)はなく、仕事(しごと)の上(う)でのノウハウであってなんでもいいのだが、とにかく「これが自分の拠(よ)って立つ場(ば)である」といえるような固有(こゆう)の基盤(きばん)、それを中心(ちゅうしん)としてもろもろの情報(じほう)が凝集(けいしつ)され統合(とうごう)される専門性(せんもんせい)の「核(かく)」を保有(ほいう)していなければならない。そうでなければ、せっかくの豊富な知識(ちしき)もすべてが均等(きんとう)な重み(じゆうみ)で並列(へいれつ)されているだけで、相互(たがひ)に連動(れんどう)することのない寄せ集(よせあ)めの集合体(しゅうごうたい)にとどまってしまうからだ。

要(い)するに、教養人(きょうようじん)はまず専門(せんもん)人(じん)でなければならないのである。

(石井洋二郎(いしひらふさじろう)「大人(おとな)になるためのリベラルアーツ」による……一部省略(りやくしょうりゃく)がある)

注

- 逆説…真理と反対のことを述べているようで、実は一種の真理を言い表している表現
- 咀嚼…文章や物事の意味をよく考えて正しく理解し味わうこと
- 反芻…繰り返しよく考えたり味わったりすること
- 萌した…芽生えた ○モンテーニュ…フランスの思想家
- 生き字引…知識が豊かで何ごとともよく知っている人
- TTPP…環太平洋経済連携協定(環太平洋パートナーシップ協定)
- 関の山…せいせい ○昇華…ものが純化され、高められること
- ノウハウ…ものごとこのやり方

(1) 本文中の **キョク面** の片仮名の部分を漢字に直し、楷書で書け。

答の番号【7】

(2) 本文中の **通常** の定義の内容として最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。

答の番号【8】

(ア) 自然に湧き上がってくるさまざまな感情を封印し、ものごとを簡単には信用しなくなるが、「大人になる」ということである。

(イ) 歳を重ねることで社会的検閲をくぐりぬけ、自然に感情が湧き上がるようになることが、「大人になる」ということである。

(ウ) 心に生じるさまざまな感情を抑え込み、ものごとに疑いをもたないようになることが、「大人になる」ということである。

(エ) 疑問や怒りなどの自然な感情を、隠そうとしたり恥ずかしく思ったりしなくなるが、「大人になる」ということである。

(3) 本文中には次の一文が抜けている。この一文は本文中の(1)～(4)のどこに入るか、最も適当な箇所を示す番号を一つ選べ。

答の番号【9】

その意味では、すでに「大人である」と思っている人ほど「大人になる」とはむしろかしいといえる。

(4) 本文中の **教養** について説明したものとして最も適当なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。

答の番号【10】

(ア) 心に生じる感情や疑問、それらをとりえる感受性のこと。

(イ) 豊かな知識や経験、それらに支えられた思考力のこと。

(ウ) 豊富な読書量に支えられた、さまざまな分野に関する知識のこと。

(エ) いったん「子どもになる」ために必要な、下地や素養のこと。

(5) 本文中の **率直に** の意味として最も適当なものを、次のI群(ア)～(エ)から一つ選べ。また、本文中の **固有の** の意味として最も適当なものを、後のII群(カ)～(ケ)から一つ選べ。

答の番号【11】

I群 (ア) むやみやたらに (イ) 普段よりおおげさに

(ウ) 他の人より先に (エ) 飾りけなくありのままに

II群 (カ) 強くてかたい (キ) そのものに限ってある

(ク) 他よりも重要な (ケ) まれにしか存在しない

(6) 次の文章は、本文中の **「教養人」** の条件について述べたものである。

X・Y に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、後のI群(ア)・(イ)から一つ選べ。また、Z に入る最も適当なものを、後のII群(カ)・(キ)から一つ選べ。

答の番号【12】

専門以外の複数の分野にまたがるバランスのとれた知識を幅広くもっていることは、「教養人」であるために X 条件ではあるが、「教養人」であるために Y 条件ではない。つまり、Z ということである。

I群 (ア) X 必要 Y 十分 (イ) X 十分 Y 必要

II群 (カ) 「教養人」は必ずさまざまな知識をもっているといえるが、さまざまな知識をもっている人が必ず「教養人」だとはいえない

(キ) さまざまな知識をもっている人は必ず「教養人」だといえるが、「教養人」が必ずさまざまな知識をもっているとはいえない

(7) 本文中の **そうだ** の品詞として最も適当なものを、次のI群(ア)～(エ)から一つ選べ。また、**そうだ** と同じ意味・用法で **そうだ** が用いられているものを、後のII群(カ)～(ケ)から一つ選べ。

答の番号【13】

I群 (ア) 助詞 (イ) 助動詞 (ウ) 感動詞 (エ) 形容動詞

II群 (カ) 南の島で見る夕日はとても美しい**そうだ**。

(キ) 午後は雨が降り**そうだ**と彼女は言っていた。

(ク) 彼は今後の生徒総会で意見を言う**そうだ**が本当だろうか。

(ケ) **そうだ**、次の休みの日には一緒に映画を見に行こう。

【裏へつづく】

- (8) 本文中の「隔てる」の漢字の部分の読みを平仮名で書け。……………答の番号【14】
- (9) 本文中の「振舞う」ことができるようになる。を単語に分け、次の〈例〉にならって自立語と付属語に分類して示したものととして最も適当なものを、後の〔ア〕～〔エ〕から一つ選べ。……………答の番号【15】

〈例〉日は昇る。……………〔答〕 自立語＋付属語＋自立語

- (ア) 自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋自立語
- (イ) 自立語＋自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋付属語＋自立語
- (ウ) 自立語＋付属語＋自立語＋自立語＋付属語＋自立語
- (エ) 自立語＋自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋自立語
- (10) 本文に書かれている内容と一致している文として適当なものを、次の〔ア〕～〔オ〕から二つ選べ。……………答の番号【16】

- (ア) 成熟した大人になろうとすることで、人間としての自然な感情をもった子どもであり続けることができる。
- (イ) 私たちは「教養人」という言葉から、自分の仕事以外のことに関する知識も豊富にもっている人を思い浮かべることが多い。
- (ウ) 特定のことがらに対して深い知識をもった人であっても、世間知らずといわれてしまうことがある。
- (エ) さまざまなことについて詳しく知っているということは、それ自体が大きな意味をもつことである。
- (オ) 相互に連動することのない寄せ集めの知識は、ものごとを判断するときには思考の妨げになることがある。

(11) 京子さんと太郎さんのクラスでは、本文を学習した後、本文についての意見を交換し、レポートを作成することになった。次の会話文は、京子さんと太郎さんが話し合ったものの一節である。これを読み、下段の問い〔一〕～〔四〕に答えよ。

京子さん 筆者は、自分の中に生じた **A** 能力をもっていることが「大人」になるための条件の一つだと述べているよ。この能力をもつ人を、筆者は「教養人」と表現しているね。つまり「大人」になるには、「教養人」でなければならぬんだ。

太郎さん そうだね。そして、本文にあるとおり、単なる「物知り」ではない「教養人」になるには、多くの知識を **B** としてもっているだけではなく、それらの知識を有機的に結びつけて、**C** へと構造化しなければならないんだ。

京子さん そのためには、**D** がなければならぬと筆者は述べているんだね。それじゃあ、テーマを決めてレポートを書こう。

〔一〕 **A** に入る最も適当な表現を、本文中から三十六字で抜き出し、初めと終わりの三字を書け。……………答の番号【17】

〔二〕 **B** に入る最も適当な表現を、本文中から九字で抜き出して書け。また、**C** に入る最も適当な表現を、本文中から九字で抜き出して書け。……………答の番号【18】

〔三〕 **D** に入る最も適当なものを、次の〔ア〕～〔エ〕から一つ選べ。……………答の番号【19】

- (ア) ものごとを考える土台となる自分の得意な分野
- (イ) 情報を相互に連動させて用いることができる素質
- (ウ) バランスよく知識を得るための基礎的な学力
- (エ) 互いに結びついた知識を分類して整理できる知恵

〔四〕 レポートを書く際の注意点として適当でないものを、次のⅠ群〔ア〕～〔エ〕から一つ選べ。また、京子さんはレポートのタイトルを行書で書くことにした。行書の特徴について述べた文として適当でないものを、後のⅡ群〔カ〕～〔ケ〕から一つ選べ。……………答の番号【20】

Ⅰ群

- (ア) 漠然としたテーマよりも、具体的なテーマを設定する。
- (イ) 調べたことは、カードやノートを用いて工夫して記録する。
- (ウ) 集めた情報をすべて盛り込めるよう、構成を工夫する。
- (エ) 調べたことと自分の意見を分けて構成する。

Ⅱ群

- (カ) 楷書で書くときと異なり、筆脈を意識しないことが多い。
- (キ) 楷書で書くときよりも、点画に丸みをもたせることが多い。
- (ク) 楷書とは異なった筆順を用いることがある。
- (ケ) 点画を連続させたり省略したりすることがある。

